
本編 & 短編付録！

冬空 奏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本編&短編付録！

【Nコード】

N9495G

【作者名】

冬空 奏

【あらすじ】

ぐだぐだゆるゆるの雰囲気の中作ってみた物ですこのまま、続けて行きたいです

特集！永久保存版ですゾー！（前書き）

注・ぐだぐだです

以上を平気な人はどうぞ^^

特集！永久保存版ですゾー！

作者「どうもー」

エル「つかさー、何だよこれ!？」

作者「私のぐだぐだっぷりをより読者に伝えるページ」

エル「そうなのか（汗）」

作者「さて、今回はクイズ&新キャラ紹介をさせて頂きます」

エル「大丈夫なのだろうか（汗）」

作者「コホン・・・まずはキャラ紹介から・・・短編の方で、ネタで使われた・・・暁君です」

暁「作者はね・・・名前だけは強そうにして・・・笑わせようと言う魂胆だよ・・・」

作者「ぬ!？正解ではある・・・」

エル「本当にぐだぐだなあ・・・おい」

作者「仕方ない（汗）」

エル「本編であつたことでも話せば?」

作者「そうだねエ・・・」

エル「あれは？・・・ゴニョゴニョ・・・」

作者「うん・・・うん・・・そうしよう・・・」

作者「さて、本編ではコラボを2回程させて頂きましたm（ ）
mバクフーンさん有難う御座います」

エル「本当に、有難う御座います」

作者「エル達はあっちに行った事あるよね？」

エル「凄かったよ・・・大きかったし・・・」

ルカ「ラグラージさんも強いですから、強盗二人は気がつけば倒れてました（笑）」

作者「・・・コホン・・・」

エル「にしてもさ、書いて行くにつれぐだぐだになってないか？」

作者「さて、切り替えますが本編より短編の方が人気が高いみたいです（汗）」

エル「暇だから書いてみただけなんだろう？」

作者「そうだよ（汗）でも、結構人気らしいね（笑）」

エル「そりゃあそうじゃ」

作者「それってさ、懐かしいなあ・・・響きが・・・」

エル「誰でも分かるだろ（汗）」

作者「さて、中盤に差し掛かってきた所ですね」

エル「何するの？」

作者「無限（作者）が好きなポケモンの話当てクイズ」

エル「作者以外それ知ってる奴居るか？ヒントは出せよ・・・」

作者「分かてるよ・・・でも、これ古いんだよなあ・・・」

エル「へえ・・・じゃあ、早速問題の方を・・・」

作者「じゃあ、ヒントを出していきます」

作者「第1ヒント カスミ時代です（汗）」

作者「第2ヒント 最後のオチがヤドンがヤドランに進化する所で
す（笑）」

エル「第2で分かった人居るんじゃない？」

作者「いいじゃない・・・第3ヒント ポケモン達がおでんやに行
きました」

作者「ラストヒント 字幕があります」

エル「結構分かり易いんじゃないか？」

作者「分かった方はメッセージで送って下さい」

作者「さて、もう終盤ですかね・・・」

エル「早いなあ・・・おい・・・」

エル「にしても、最後までぐだ痛ッ!？」

作者「ハリセンは置いといてですね・・・」

作者「さて、最後のクイズです。歌当てクイズ!」

エル「誰が歌ってくれるの？」

作者「説明をします。ルカ君がある一部分を歌ってくれます」

作者「分かった方はメッセージで送って下さい。感想だとバレるので・・・」

エル「でも、作者1998〜2004までしか知らないのだから難しいかも知れません」

作者「まあ、そうだね（汗）じゃあ、第1問」

ルカ「歩き続けて何処まで行くの？風に尋ねられて立ち止まる」

作者「ついでに、伸ばし棒は無しの方です（汗）」

作者「第2問！」

ルカ「ちょっとした遊びでも、罪の無い嘘でも」

作者「分かり難いかもしれませんが（汗）」

作者「続いて第3問」

ルカ「夕日が見える所まで」

エル「今回短いなあ！おい！（汗）」

作者「聞き取りにくいんだよ・・・」

作者「第4問！」

ルカ「海に風が、朝に太陽が必要なと同じように」

作者「途中で切る方が分かりにくいでしょ？」

エル「難しくするのはいいかも・・・」

作者「第5問」

ルカ「1 2の3でGETでよいよい」

作者「分かり難いかな？」

エル「5問目少し難しいな・・・」

作者「第6問！」

ルカ「ギャラドス喜び泳ぎ回る。ギャラドス喜び泳ぎ回ると大きな波がザザザザブーン！」

作者「とりあえず、頑張っております（汗）」

エル「難易度がってねえか？」

作者「第7問！」

ルカ「どうせこの世はほじゃらかほいほい」

作者「難しいですかね？以前に歌詞正解かなあ？」

エル「そこら辺きちつと確認しろい！」

作者「第8問！」

ルカ「気まずい空気ポロック一つで仲直り」

作者「これも、少し分かり難いですね（汗）」

エル「第9問！」

作者「あ、言われた（汗）」

ルカ「古いとはなんじゃ！」

作者「覚えてる人少ないと思います（汗）」

作者「第10問！」

ルカ「水が怖くてしりごみしてた、あの夏が蘇るよ。背中押されてはやつと泳げた」

作者「今回は分かりやすいのを持ってきました」

エル「好きな人結構いるんじゃない？」

作者「ラスト！！」

エル「ラストかぁ、早いもんだなぁ」

ルカ「傷つかぬ者に青空は見えない」

エル「これは、分かり易いそして、作者が一番好きだな」

作者「うん。私はこの曲がいままで聴いた中で一番好き」

エル「じゃあ、解散！」

作者「お疲れ」

ルカ「お疲れ様でした」

エル「乙」

作者「あまり更新しないと思いますが増刊号お楽しみに」

エル「つか、増刊号って何処からパクった」

作者「いいとも」

エル「やっぱしかい（汗）」

作者「ではっ、次回もありますよー」

作者「そして、クイズの期限は5月23日までとさせていただきます」

エル「本編と短編も宜しくです」

特集！永久保存版ですゾー！（後書き）

いいですか！メッセージですよ！

メッセージ！メッセージ！メッセージ！

エル「うるさいー！」

ぐへえ・・・

福袋を開ける気持ちで観覧を・・・（前書き）

今回も、ぐだぐだです

注：作者が、曲のタイトル忘れてる可能性も御座います（汗）
いつでも、クイズに参加して下さい
一番はポケを知らない人もできますよー

福袋を開ける気持ちで観覧を・

作者「どうもー」

エル「二回目だなあ・・・更新」

作者「出来る時にーやっとなないとね・・・」

エル「まあね・・・」

作者「さて、今回のラインナップはですね・・・」

作者「曲当てクイズ、他多数？の予定です」

エル「予定立てなくていいじゃないか！」

作者「では、早速曲当てクイズ！」

エル「話がまだ途中でしようが！」

作者「何処の国から？ですか？」

エル「ハハハ・・・（恥）」

作者「今回はポケじゃないものだけとポケのと分けさせて頂きます・
・・・」

作者「第1問！」

ルカ「誰よりも早く走り抜ける」

作者「間違えてるかもしれません歌詞を・・・」

エル「難しいんじゃないか？（汗）」

作者「第2問！」

ルカ「さあ晚餐をともにしよう。愛すべきグルマンティス」

作者「やはり、歌詞間違ってるかも・・・」

エル「つか、これ分かる奴あんまりいないんじゃないかね？」

作者「そうかも・・・第3問！」

ルカ「眩し過ぎて見つめる事のできない太陽。明日へと続くこの道に、いつも影は一つ」

作者「これは、分かりやすいと思います」

エル「まあ、さっきまでの流れなら一番分かり易いかもしれん・・・」

作者「そうだねえ・・・第4問！」

ルカ「かさなる影飾らない気持ちで強さを求めてく」

エル「これは、分かり易いかな？」

作者「第5問！」

ルカ「僕が泣いているのは、とても悔しいからです。」

作者「これは、知ってる人が少ないかも知れませんね（汗）」

エル「作者が知ってる歌はマニアックだなあ（汗）」

作者「コホン・・・第6問！」

ルカ「無限大なあ、夢の後の何も無い世の中じゃ、そうさ愛しい思いも負けそうになるけど」

作者「この時の好きだったけど今は、ちょっと・・・・・・・・」

エル「俺もこの時が一番好きだったよ」

作者「第7問！」

ルカ「夕闇のキャンバスにワインレッドの夕日を見送った帰り道」

作者「難しいですかね（汗）」

エル「もう、ポケモン関係ないしね（汗）」

作者「ラスト！」

ルカ「カボチャ、チャーシューメン、明太子、コーンビーフ」

作者「分かり易いかも・・・？」

作者「さて、次はキャラ紹介だ〜！」

エル「そうだね」

ルカ

本名は瑠華 新一

基本的には敬語で話す。しかし、優しい面と怖い面の二つを持つ敬語からタメに豹変する

エル

本名は現在未定（汗）

基本タメ口で話す。元武士の過去を持っている
通称「嫁いらず」ただし、酔うと豹変する

リュウ

本名は瑠華 龍

現役の武士。腕前は伊達ではない

暁

本名は夕暮 暁

カイリュウの着ぐるみを着ているが、実は中身はリオル
本当は忍

バク

本名は炎上爆破

元武士の過去を持つ。

普段は、温厚で変態だが武士となると凄く強い
通称「人斬り爆破」

作者「とりあえず、こんな感じで・・・」

エル「少し過ぎるだろ・・・」

作者「続いては・・・2択クイズ！」

エル「説明してくれ・・・」

作者「私の、ダイヤモンドのポケモンのLv当ての二択クイズです！」

エル「難しいなあ！？一問だけにしろよ・・・」

作者「第一問！私のパルキアのLvは？1番100 2番85」

エル「さあ、どれ？」

作者「さあて、最後はやっぱり！ポケの曲当てクイズ！」

作者「第1問！」

ルカ「I still love you
I need you
love again」

作者「つづり間違っていないか不安です（汗）」

エル「作者はこの曲を今日知りました（汗）」

作者「はい・・・（汗）続いて、第2問！」

ルカ「白いページ落書きしてできたての歌歌ったよね」

作者「私はこれが、二番目に好きです」

作者「第3問！」

ルカ「一人でじっと 悩まずホント 駆けつけるから」

作者「これも、今日知りました（汗）」

エル「駄目駄目だな・・・第4問！」

ルカ「バレてたんだね・・・この涙の訳は」

作者「歌詞合ってるか本当に不安です（汗）」

作者「第5問」

ルカ「時には誰より 落ち込んでみたり」

エル「少ないなあ・・・」

作者「これは、見に行つたからね！」

作者「第6問！」

ルカ「翼もらった 悲しみ去つた心に」

作者「これは、クリスタルの時？に近いですかね？」

作者「第7問！」

ルカ「風を追い越し、何処までも行こう」

作者「結構懐かしいです（汗）」

作者「第8問！」

ルカ「夢の蕾は蕾のままだけど」

作者「結構少なめのに（汗）」

作者「第9問！」

ルカ「まるで、映画の主役の様♪」

作者「ルカものつてきました・・・」

作者「第10問！」

ルカ「151の喜び♪151の夢♪」

作者「第11問！」

ルカ「此処まで来るのに夢中過ぎて・・・」

作者「そろそろ、疲れてきましたか（汗）」

作者「第12問！」

ルカ「ポケモンの名前〜!!!」

作者「これは、雰囲気付けたかったんです（汗）」

作者「第13問!」

ルカ「誰かに電話したくなっちゃったニヤ」

作者「分かり易いですね（汗）」

作者「第14問!」

ルカ「今では世界中探しても見つからない。最高のボロボロ靴さー」

作者「懐かしいです（笑）」

作者「さて、クライマックスいよいよ!ラストです!」

ルカ「ぎんぎんぎらぎら夕日が沈めばそれがパーティー始まりの合図!」

作者「これは、簡単かも・・・」

エル「やっと終わったな・・・解散!」

ルカ「お疲れ様でした」

エル「いやーお疲れ」

作者「お疲れ様〜またいつか更新考えとくね〜・・・」

エル「所で、あの問題の期限は？」

作者「5月24日かなあゝ、メッセージで送って下さいね」

エル「ついだが、最初のは答えなくてもいいぞ」

作者「またいつか、この付録で会いましょう」

福袋を開ける気持ちで観覧を・・・（後書き）

中々、問題数が多いでしょ？

読者の皆様の参加できる企画を考えた結果あれです（汗）
これからも宜しくです

解答欄に書くの面倒くさい

作者「どうもー^^そして、重大発表!」

エル「重大じゃあないだろう(汗)」

作者「第2回のクイズの答え発表期間を6月の下旬に引き延ばさせて頂きます」

エル「じゃあ、とりあえず答えの発表をしようか・・・」

作者「答えの発表です!」

翼「第1問、風と一緒に 第2問、toi et o moi 第3問、明日天気にしておくれ」

翼「第4問、ひとりぼっちじゃない 第5問、ポケモン音頭 第6問、ポケモンはらはりレー」

翼「第7問、ポルカ・オ・ドルカ 第8問、冒険のはじまりだ!!」

翼「第9問、めざせポケモンマスター 第10問、小さきもの 第11問、そこに空があるから」

翼「これで、OKか・・・無限・・・」

作者「ありがとね、大將軍」

エル「大將軍呼ぶなよ(汗)そして、まだ発表がある様だが・・・」

作者「いやあ、気まぐれなのですが本編が終了の可能性あります
(汗)」

エル「マジですか(汗)今週中位か？」

作者「一応、予定は6月のいつかです(汗)」

エル「予定だろうけどな(汗)せっかく、KWとか出したのにな
(汗)」

作者「案外、不評だったんです(汗)短編の方が人気です(汗)」

エル「あっちは戦国だからね(汗)バトルシーンとコメディだから
さあ(汗)」

作者「本編にも、バトルシーンは入れますけど・・・」

エル「ああ・・・下手なんだね(汗)」

作者「YES・・・」

エル「さて、終わり方は考えてあるの？」

作者「え？・・・うん、もう去年から考えてるよ(汗)」

エル「どれだけ、終わらせたいんだ(汗)もう、短編じゃねえか
(汗)」

作者「一応、新しいの考えたからさあ・・・」

エル「3年・組系はやめろよ？あれ、最近流行ってるけどな（汗）」

作者「違うよ（汗）」

エル「じゃあ、どんな感じの？」

作者「えっと、ついさっき忘れました（汗）」

エル「マジか（汗）また考えておけ・・・」

作者「どんなのだったかなあ（汗）もういいや、3年・組系で（汗）」

エル「本編でやれよ（汗）原作見た事あるの？」

作者「無いです（汗）」

エル「もう、いつそ短編を終わらせたら・・・」

作者「そっちの方が早いなあ・・・」

エル「本気で考えてる（汗）」

作者「まあ、キャラ紹介でもしますね」

神鳥 翼

大將軍の称号を持つルギア
凄く強く、怖い反面素顔は・・・

クラーケン

ルカに一番最初に挑戦状を送ったバクフーン
ルカの同期で、武士として活躍
でも、やっぱりルカよりは弱かった・・・

ガン

本名は、炎 鉄銃
バトルの腕前は不明だが、ユウキと友に探検隊を結成
ユウキには怒られる事も少くない

ユウキ

本名は松田 祐樹
今は、デンリユウのユウキ
元が人間なので本名はこんな感じ
大学でもよくいじめられる
凄く、ポケモンが好きで中でも一番デンリユウが好き

END of FOREVER

少しだけだが未来の予知をすることができるラグラージ
だが、4人衆によってすぐに敗れた

毛利元有

元就の遠い遠い親戚
スイクンで、兵を捨て駒としか思っていない
平気で兵を殺す

アキ

本名は、遠藤 秋
人間の様な名前だが気にしない(汗)
性格が良く、とても可愛いが誰も彼氏になろうとはしない

理由は兄にボコられると言う事

ラティオスの兄はシスコンで正直。アキ本人も困っている

ラティ

本名は遠藤 羅手

妹の事を非常に大切に思っている

妹と離れるとすぐ、妹の事が心配になる極度の心配性
流石に、最年長なので少し落ち込みぎみ

市役所の人

一回だけ出てきた

多分もう出番は無い

エル「最後の何だよ（汗）」

作者「いや、思いつき（汗）」

エル「とりあえず、解散」

作者「お疲れ様」

エル「乙」

謝罪は申し訳なさが大事

「どもどもー、無限です」

エル「なあ、新作書く前に何か終わらせないか？」

「いいじゃんwと言うかエル、後ろ」

エル「ん？ぬおっ！？お前等誰！？」

銀時「お前こそ誰だよコノヤロー。俺は銀時だ。坂田銀時」

神楽「私は大江戸のスーパーアイドル！神楽アル」

新八「いや、違うから。僕は眼鏡の新八です」

KAITO「いやー、俺はKAITOだよ」

ミク「私は初音ミクです」

レン「シヨタとよく言われる14歳 鏡音レンです」

エル「う・・・うん・・・宜しく・・・」

ルカ「今回はどんな感じでやるんですか？」

「前半は喋くり、後半は・・・うん・・・」

エル「喋くりなのか（汗）」

銀さん「もういいよ！俺帰るからな！」

新八「僕も帰らせてもらいます！」

神楽「私もアル！」

「チョコパフェとお通ちゃんのCDとフライドチキンの皮もあるんだけどな・・・」

銀さん「ようし！お前等、最後まで頑張るぞ！」

2人「おー！！！」

KAITO「俺達の分は？」

「いや、あるけど・・・まあ、食べながら話そうか・・・」

銀さん「で・・・その緑の野郎と青の野郎。お前は誰だ？」

エル「俺はこのコーナーのレギュラーのエルだ」

ルカ「歌担当としてやっていた。ルカと申します」

神楽「そうアルか。」

新八「とりあえず、談義をしましょう」

DJ OZURA「やるなら今しかねーZURA♪やるなら今しかねーZURA♪」

DJ OZURA「攘夷がJOY♪JOYが攘夷♪ふざけた奴に俺の天誅♪」

DJ OZURA「やるならー」

銀さん「ジョーイ!!!」

銀さん「何やってんだ桂あ」

桂「ラップで攘夷の普及活動を・・・」

銀さん「そんなんで攘夷が増えるか!・・・ん?」

新八「KAITOさんとミクさんが凄いキラキラした目で見てます・
・」

KAITO「なるほど・・・いいリズムだ」

ミク「ラップはやったことが無いです・・・教えてください!」

桂「まずはこういう風に、手を・・・」

銀さん「放つとこうぜ・・・あいつ等・・・」

「さて、何を話すんだ?」

銀さん「もしも過ぎる話だが、此処の小説がアニメになるんなら誰に声優やってもらいたい?」

ルカ「私は・・・誰になるんですかね？」

エル「イメージ的にはコナンの声優やってる人じゃない？」

銀さん「ああ、少し分かる・・・」

エル「俺だとどうなるんだ？」

「子安さん？」

銀さん「メジャーな声優ばかりだな（汗）」

神楽「どちらかと言うと、石田さんの方が似合ってるアルな。」

「そうかも・・・」

銀さん「俺達は今の銀魂のアニメのママが一番似合ってるだろうな・・・」

新八「そうですね・・・」

DJ OZURA「はい！いくぞー！！」

DJ OZURA & KAITO & amp・ミック「やるなら今しかねー ZURA」

DJ OZURA & KAITO & amp・ミック「攘夷が JOY」
OY が攘夷 ♪ ふざけた奴に俺の天誅 ♪」

DJ OZURA & amp・KAITO & amp・ミック「はい！も

う一回な！」

D J O Z U R A & K A I T O & a m p ・ ミク「やるなら……
」

万事屋メンバー「ジョーイ！」

「でたあ……飛び蹴り……」

D J O Z U R A & a m p ・ K A I T O & a m p ・ ミク「あ……」

銀さん「あ……じゃねえよ……何統率した動き見せてるんだよ」

新八「もう、後半ですよ」

「じゃあ、あつちに移るか……」

「えっと、私の悪質な行為でバクフーンさんを傷つけてしまい。まことに申し訳御座いませんでした。」

「ちょっとした行為が悪質な行為に発展してしまい、申し訳御座いません」

「今回の件については本当に申し訳御座いませんでした！」

「以後しない様に気をつけます……」

銀さん「俺等からも……」

一同：申し訳御座いませんでしたあ！！m（（m

今回はこの辺で・・・

一同：乙でしたあ！

一同&作者：そして、バクフーンさん申し訳御座いませんでしたあ
！：m（（m

謝罪は申し訳なさが大事（後書き）

本当に申し訳御座いませんでしたあ！！m（
|
|
）m

忘年会じゃないんだよ・・・

作者「はい。どもー、久しぶりでーす」

エル「このコーナー、いつになったら終わるんだ？」

作者「知らない。多分ケツコー続くよw」

エル「マジか・・・今回の、ラインナップは？」

作者「キャラ紹介と、もしもシリーズとギャグシリーズかな？」

エル「後の二つなんだ（汗）」

作者「番外編？みたいなもの、下ネタもありでやっていこうと思う」

エル「駄目だろ！！まあ、俺が止めるけどな」

作者「ならいいや。やっちゃえw。後、雑談コーナーもあるから」

エル「そかそか・・・そして、俺以外誰か居ないのか？」

ニコ「ういゝっす、WAWAWA忘れ物・・・ふぬあっ!？」

ニコ「すまん・・・ごごご、ごゆつくりイ!!」

作者「いや、帰るな・・・気まずいから・・・」

ニコ「やあやあ、私だよ・・・って、覚えてる人居ないか・・・」

銀さん「いや、一人位居るだろ・・・」

作者「お、増えてきた」

翼「私は、居ては・・・駄目なのか？」

作者「いっそ、居てください」

春菊「俺も、来たＺＥ」

作者「もう、皆居るじゃん（汗）亡霊も居るし・・・」

作者「自己紹介・・・しなくていつか・・・」

翼「確かにな・・・少し、しすぎた・・・」

作者「うん。あ、ブラが居る・・・フィも居る」

ブラ「忙しい中来たら・・・忘年会か？」

作者「違うよ。付録だよ・・・特典だよ」

作者「おまけだよ。」

作者「さて、そんな事は置いて・・・もしも編スタートしようと思う」

エル「やるの？という設定？」

作者「ヘイ、台本」

エル「あ、ども……って、こんなふざけた企画があるかアア！
！！しょーりゅーけん！！」

作者「ぐふあっ！？いいじゃんやつちやえw」

エル「まあ……いいか……」

作者「どうせやるの後でだけどね」

エル「竜巻旋風脚！」

作者「ストリート・イターズ？少しパクりすぎじゃない？」

ニコ「合衆国ニッポンポン！」

作者「出たよ（汗）ルルーシュ（汗）」

リュウ「やるなら何かやれよ、作者」

作者「イゝエゝ アアアア！！」

エル「あんにやる……緊急脱出しやがった」

ニコ「ヒロシ技だね」

you「ま、とりあえず雑談でもしとけば？」

エル「うむ。そうしよう」

ルカ「司会はエルさんですね」

エル「え？俺！？」

ニコ「一番経験あるじゃん」

エル「分かった」

ソウル「邪魔するぞ」

ニコ「おめえの席ねえから！-！」

ソウル「……………（泣）」

エル「まあまあ、攻めるなよ（汗）おいソウル……俺の席使え」

ソウル「……………うん……………」

エル「すげえ、沈んでるな……………」

作者「もういいや、裏話でもするかな……」

エル「どうゆうのだ？」

作者「実は、ソウルを今回殺したけど、あれは書いた（1話）直後からずっと書くことと思ってました」

ソウル「なんと！-？」

エル「そっというのが好きなのか？作者」

作者「もう一つだけど、多分本編BAD ENDで終わるよ」

エル&ルカ&ブラ「な、なんだってー！？」

作者「MMR？キバヤシですか？」

ルカ「でも、それはただ事ではありませんね……………」

作者「とりあえず、そんな感じだよ」

銀さん「俺達の方はあるのか？」

作者「今の所無いんだよね」

神楽「つまらないアル」

作者「でも……エルとサーナの短編にはあつたな……」

エル「そ、それを持ち出すのはや、やめてくれーっ！！！！（照）」

作者「聞きたい人ゝ挙手」

神楽ノ

銀さんノ

その他諸々（エルとサーナ以外）ノ

作者「という訳で言うよ」

作者「実は、夜景じゃなくて、夕焼けの予定だったんだよ」

作者「そして、少し淡路島に行った時に見た明石海峡大橋を見て思いついたんだよ。あれ」

作者「綺麗だったよ。明石海峡大橋の夜の姿」

エル「……………／／／／」

ルカ「なるほど……妹に抱きつくエルさんは普通なんですけどね……あの時は、少々ツンデレでしたかね？」

作者「かもね。今回だけだよ。あれだけエルが赤面になるのも……」

エル「……………うわああん!!!!!!（走&泣）」

サーナ「待つて、お兄ちゃん!!!!!!」

作者「行っちゃったね……………」

ブラ「少し、悪かったかもな」

作者「なおも、ブラ君のツンデレとフィのはまだ見れるかもしれないね……」

ルカ「なるほど……メモメモ……」

ブラ「作者、話は変わるがエアコンなどはつけるのか？」

作者「エアコンは寒いからつけない。扇風機つけてる」

銀さん「まあ、扇風機が一番いいかもな」

作者「なんかもう、2000字位で終わらせるか・・・」

銀さん「もうすぐだな・・・（汗）」

ルカ「本編は無くなりますね。分かります」

作者「うん。仕方ないよ、書きすぎたし・・・」

ルカ「それでは、この辺で」

ニコ「大蛇」

銀さん「カンケーねーだろ（汗）」

銀さん「万事屋はいつも平和？を宜しくな」

リュウ&春菊「空は青、陽は赤、草は緑も見えてくれよな！」

ニコ「にこちゅーも見てね！作者が更新してくれたらね（汗）」

ルカ「本編も宜しくです！」

作者「それでは・・・さよーならー」

ルカ「お疲れ様でした」

ニコ「乙」

you「ざわ・・・ざわざわ・・・」

作者「さて、小説更新するかな・・・」

リュウ「頑張れよ！」

作者「有難う（笑）」

笑いアリ？BLあり！？（前書き）

なんか凄いことに・・・。

エル「そーだな・・・。」

それではどうぞ！

笑いアリ？BLあり！？

作「どうもどうもー！」

エル「いやー、もう年末だねー。小説の更新もロクにしない年だったね・・・。」

作「いや、去年よりはしてるし忙しかったからね（汗）」

ルカ「テスト勉強はしっかりやりましょーね。じゃないと、また数学40とかとりますよ？」

作「言わないで（汗）」

望「俺もきてみましたー・・・。」

佐奈「私もー♪」

リュウ「久々に賑やかになりそうだな・・・。」

春菊「楽しくなりそうでいいねい♪」

沖田「俺も、きやしたぜい。」

万事屋銀ちゃん「「万事屋銀ちゃん、見参！！」」

作「あらー、凄い忙しい事になりそうだ（汗）」

作「とりあえず、エル・・・台本どおり進めて・・・。」

エル「あいー・・・。まずは、絶対にありえないストーリーだね。」

作「はいー。やってみましょーっ！」

「ただいまー・・・。」

「あー、おかえりエル君っ♪ご飯にする？お風呂にする？それとも、わ・た・し？」

「そりゃあ、勿論・・・さー・・・って待てこらあああ！」

作「なんですかー？」

エル「いや、兄妹揃って何やってんだって感じじゃん！」

作「いや、だから面白みがあるんじゃない♪禁断の愛だよ、禁断の愛。」

「

春菊「ほう、それは興味深い話だね・・・。」

リユウ「恋愛なんてした事ない俺にはとても・・・。」

エル「やめてくれええええ！」

サーナ「でも、言ってる時お兄ちゃん本気っぽかったけど・・・？」

エル「やつ、やめてくれええええ！」

作「はいー。そこまで。」

作「次はー？」

エル「ひぐっ・・・えーと、雑談だって・・・（泣）」

作「泣くんじゃないよ（汗）」

作「そと思ったら、バクが思いつきりエルに近づいてるんですけど・・・（汗）」

バク「エルは泣き顔も可愛いね・・・俺、人の泣き顔って大好きなんだ・・・。」

エル「ひうつ・・・やめてくれ・・・それに、可愛くないし・・・。」

バク「俺の言ってる事を否定する気？」

エル「ひうつ・・・そうじゃないけどお・・・。」

バク「じゃあ、みとm（作者に殴られる）」

作「はい・・・長い長いBL話はそこまで・・・。」

エル「ぷはあ・・・怖かった・・・。」

作「ホモだったんだね（汗）本編では、見せなかったね（汗）」

エル「次は・・・ないね。」

作「しかし、これだけでは終わらせれない・・・。」
作「漢字しよう。漢字。」

翼「私が出題しよう。ついでに、あのヤンキー先生とは違う形式だから？」

？米粉

？希臘

？亜米利加

？柿本人麻呂

翼「これでいいか？」

作「結構難問とかで、揃えたね（汗）」

翼「まあな・・・。」

作「まあ、いつでも答え募集ですー！」

作「それではー。」

銀さん「じゃあなー。」

エル「ばっはっはーい。」

笑いアリ？BLあり！？（後書き）

・
・
・。

エル「・
・
・。
」

何もいえねえ・
・
・。

ようこくー！（前書き）

さて、今回は重大発表です！

エル「ほんとかー・・・？」

それは、お楽しみに（笑）

よっくー！

作「さて、今回の付録は何にしよう……。」

ルカ「何かしてみたらどうです？」

作「うーん……何しようか？」

エル「どうせだし……一回だけ、本編復活みたいなのは？」

作「あー……本編が最高速で終わったからいいかもしれないねー。」

「

ブラ「そう聞いちゃ黙っちゃいらねーな！」

作「主人公さんの登場ですか（笑）」

エル「これは、もう……やるしかないんじゃないのか？」

作「いいや、まだやらないよー？」

フィ「えっへへー、私も黙ってられないねー……。」

ラティ兄妹「こっちも黙ってられないねー。」

サーナ「私も黙ってられないねー……これは、復帰じゃないかな？」

作「女主人公 ヒロイン の登場ですか（汗）」

リュウ「これは、やるしかないだろう！」

作「うむ・・・仕方ないなー、また本編に近い物体を連載しますかっ！」

エル「ほう、これはいいねー！」

作「そのかわり、多分すぐ終わりますよ！」

ブラ「できるだけ、頑張ってくれよな！」

作「ぐふっ！？・・・ブラ、腹にパンチはやめようか・・・。」

ルカ「という事で、頑張らしようっ！」

作「はい、やりましょうやしましょう・・・。」

ルカ「それでは、これは予告ですねー。」

作「うんっ、付録だからいいんでない？」

エル「そうだなー、とりあえず頑張っていこうか・・・。」

フィ「後、ちゃんと力入れてよね！」

ルカ「更新してないの更新しましょうね！」

作「・・・あい（汗）」

ルカ「それでは・・・本編第2部・・・？」

一同「応援よろしく願いします！」

エル「適当に作者が頑張るからな！」

作「頑張ります！ええ！」

では、第2部をお楽しみに！

よっこくー！（後書き）

ルカ「これは・・・本当ですか!？」

本当です（笑）しっかりと、頑張りますっ！

エル「よし、次も頑張ってやる！」

ほい、がんばれー！

ブラ「お前が一番頑張れよ！」

痛い・・・蹴らないで・・・。

第8回 短編の人達（下界編）（前書き）

さて、今回は短編の人達の特集をしたいと思います。

楓「ちなみに、短編を知らない人は見てみるといいかもね」

えと、たまに作る「冬空の本気シリーズ」のものです。

夢香「冬空の本気シリーズは、冗談なしのマジ小説なのー」

うん、恥ずかしながらね（汗）
ま、いいやー。

楓「それでは、付録を・・・」

一同：どうぞー！

第8回 短編の人達（下界編）

作「さて、今回も張り切って参りましょう！」

咲夜「張り切れるはずなんてないよ……」

満月「たしかに、それは同意するよ……」

夢香「ふえ？」

楓「そうだねー、張り切れないメンツだもんね……」

音優「あははー、おねーさんは元気だよー！……あれ、皆もテンションあげようよ！」

作「……えと、短編メンツの皆様でございますー！」

咲夜「……むー、小夜子居ないし……」

満月「つわあああ！！言うなあああ！」

夢香「お兄ちゃん！大丈夫ー！？」

作「もう泣いちゃってるじゃん……」

「さて、今回はこのメンツでお話をしていきたいと思いますー！」

音優「……なんか、重い話し合いになりそうだね……」

楓「作者はさー、恋愛したことってあるの？」

作「ふふふ、私を誰だと思っているんだ……？」

「それは勿論……」

全員「ごくり・・・」

作「ないよ。うん、一回もそんな感情を抱いたことすらない」

全員「な、なんだってー!？」

作「そんなに驚かれても・・・本当に無いんだもん」

楓「それでよく恋愛小説書けるね!？」

作「うんー、むしろそれしか書けない!・・・みたいなねー(汗)」

満月「よくも・・・よくも俺を不幸に導いて・・・っ!」

夢香「ふえ・・・ゆ、夢じゃだめなの・・・?ぐすん・・・」

満月「?そ、そういうわけじゃ・・・」

楓「むう・・・湊も・・・元気だったのに・・・」

作「・・・あんな結末にしたのは悪かったけど、私が書かないとここに皆居ないよ?」

全員「・・・ごめんなさい」

作「わかればよろしい♪」

楓「でも、もうちょっと結末は色々あったよね?」

満月「確かに。HAPPY ENDのノリでいいじゃん」

作「そうなんだけど、あんまりハッピーエンドはスキじゃないというか・・・その・・・」

「ある意味、HAPPY ENDじゃん？」

楓「完璧なるものじゃないけど、確かにねー」

音優「・・・私にはバッドエンドだよ・・・うう（泣）」

咲夜「わぁあん！・・・小夜子お・・・」

満月「今は夢香が居るからいいけど、居なかつたら理性保ててないわ・・・」

作「ちょ・・・落ち着いて！」

夢香を除く全員「・・・というか落ち着けないのは、お前のせいだ！！（作者に暴行）」

作「ちょ、待つ・・・ぎゃあああああ！！！！」

夢香「しばらく、効果音だけでお楽しみくだчайい・・・噛んじやった／＼」

どちゃっ！ぐちゃっ！ぐじゅっ！！ぐっちゃあ！！バチン！ドツカーン！！

満月「・・・あ」

咲夜「どうしたの？」

咲夜と夢香除く全員「死んでる・・・」

咲&夢「キヤアアア！！」

作（幽霊）「・・・というわけで次回は、死んだ人達の特集に入りたいと思います・・・」

（ちよっと、やりすぎだろう・・・心も体も痛いよ・・・）

第8回 短編の人達（下界編）（後書き）

楓「えと、今回は作者が死んでるので、私たちが代理しております」

満月「うん、作者がねー・・・あははー」

咲夜「小説だから、警察の件は平気だよ」

音優「さて、次回はどうなるんだろう・・・」

楓「作者死んでもんねー」

咲夜「たまにピクピク動いてるんだけどねー・・・」

満月「うええ・・・キモい・・・」

楓「それでは、また次回！」

全員「さよーならー！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9495g/>

本編 & 短編付録！

2010年11月13日11時30分発行